

寄り添うことの大切さ

吹田市立第一中学校

3年 大槻 美稀

「ちょっと、待ってて。」

と母は言い、私と弟から離れていきました。その先には、白杖を頭の上にあげている人がいました。

母はその人を駅員さんのところにつれていき、私たちのところへ戻ってきました。

私は母になぜ、あの人のところへいったのかききました。

母は、

「白杖 **SOS** シグナルをだしていたから。」と教えてくれました。

私は、白杖を使っている人は、視覚に障がいがある人だと知っていましたが、**SOS** シグナルがあるとは知りませんでした。

家に帰って、調べてみたら白杖には3つの役割があると分かりました。

一つ目は、障害物に衝突するのを防ぐこと。

二つ目は、まわりを探ること。

最後は、目が不自由であることをまわりの人に知らせること、だと分かりました。

白杖は目の不自由な人の命を守る大切な道具だと思いました。

さらに、調べていくと、ホームで転落して亡くなった人がいることや、杖の音に、

「うるさいよ。」

と言った人がいることも分かりました。

とても、悲しい気持ちになりました。

母がとった行動を、私ができるかなと考えました。そうしていると、晩ごはんになりました。

食事をしている時に私は母に、

「今日、良いことをしたね。」

と言ったら、母は

「あの時、ちょっと目をつぶってみたの。」

人の声、足音がすごく怖かった。あの人は本当に助けてほしかったから、勇気をだして、あのポーズをしたと思う。近くに誰かいるかなって思ったけど、あの人の気持ちを考えたら、声をかけることができた。ただそれだけ。でも、あんまり上手に声をかけられなかった。驚かせたらダメだと思い、ゆっくり話しかけようとしたら、声が裏がえった。

次は今日より上手にできるかも。」

と言っていました。

思いやりを持ち、相手に寄り添い、そして次につなげることの大切さを知った日になりました。